

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 新春座談会「公民館の明るい未来」

4.5

- 2 トピックス 新潟市公民館改革職員研修会
- 3 視点 「体験活動の重要性」 新潟市立赤塚中学校長・山田 秀樹
- 3 ひろば 「お祭り」 関川村公運審委員・新野 明美
- 6 実践記録シリーズ 「親子で運動いいですね！」 聖籠町教育委員会・高橋 誠司
- 7 サークル交流 「佐渡から全国へ」(佐渡市) / 「ヨサコイは元気のみなもとです」(刈羽村)
- 7 素顔拝見 関 容子さん(見附市) / 田中 里実さん(妙高市)
- 8 お元気ですか 「元気です」魚沼市・上田 真藏さん
- 8 ネットワーク information



UNO大会(津南町)

表紙解説

津南町公民館・子育て支援講座としてUNO大会を開催しました。18名が参加し大熱戦を繰り広げました。

新潟市公民館改革職員研修会

平成二十五年十二月八日(日) 新潟市西川多目的ホール

新潟市公民館が「平成25年度新潟市公民館改革職員研修会」を開催しました。
市内各地区公民館運営審議会委員と活動協力員も参加し総勢165名の研修会になりました。
研修会は次の内容で終日研修が行われました。

1 基調講演

篠田昭・新潟市長が、「新潟市の目指す創造都市と公民館」をテーマに約1時間にわたって講演を行いました。



熱弁の篠田市長

講演は次の8項目に分けて行いました。

- ① 創造的な都市を目指して
- ② 安全安心な都市づくり
- ③ 暮らしやすい都市づくり
- ④ 拠点都市づくり
- ⑤ 田園文化都市づくり
- ⑥ 創造的な都市づくりを進めるために
- ⑦ 新潟市のめざす創造都市と公民館
- ⑧ 公民館の役割

盛りだくさんの内容で、熱弁でした。最後の⑧公民館の役割が、時間切れで駆け足の話になってしまったことが残念でした。

2 講義

丸田秋男・新潟医療福祉大学副学長が、「地域との連携を探る」をテーマに1時間30分の講義を行いました。

- ① 市民(住民)との連携・協働の原理
- ② 調査研究事業「報告書」の概要
- ③ 地域コミュニティ協議会から見た公民館
- ④ 市長の期待にどう応えるか
- ⑤ 公民館に期待するもの

特に、⑤では次の4点について力説されました。
ア新潟市に対する愛着や誇りの形成

丁寧な講義・丸田副学長



イ地域にとって共通の「価値」の形成

ウ多様な主体との円卓会議等への参画
エ多様な主体との連携・協働の可視化

*

昼食・休憩を挟んで午後は講義と事例発表やワールドカフェが行われました。

【講義】

河内一美・新潟市地域と学校ふれあい推進課長が20分間、事業の現状について講義を行いました。

【事例発表】

西地区公民館の熊谷いみ子さんが「パートナードラッグ事業について」を、亀田地区公民館の佐藤久美子さんが「コミュニティコーデイネーター養成事業」を事例発表しました。

ワールドカフェ

「1年間の地域との協働を振り返る」をテーマに、自由に意見交換をするワールドカフェを行いました。また、終了後は各グループごとにまとめの発表を行いました。



活発な意見交換



発表全景



発表



カフェ会場



視点

「体験活動の重要性」

新潟市立赤塚中学校長 山田 秀樹



近年学校の内外で、生徒間のコミュニケーション不足やソーシャルスキルの低下によると見られるトラブルが多く見受けられる。原因として、人や社会、自然とかわかって生きる生活体験の減少が考えられる。私は、旧黒埼町の派遣社会教育主事や県立青少年研修センターでの勤務により、体験活動やボランティア活動の豊富な生徒ほど人間関係作りがうまくできていたと感じている。

我々教職員は、生徒に学力とともに生涯に渡って学び続ける力や社会性を身に付けさせたいと願っている。当校では、二年生時に職場体験を実施して望ましい職業観、他人

とのかかわり方や社会のルール等を学んでいる。また、ラムサール条約登録湿地佐潟の隣に校舎があり、佐潟を通しての体験活動が全校体制で伝統的に行われている。年三回のクリーン活動や潟普請（ヨシ刈りの運搬・泥上げ等）では、生徒と地域の方々が一緒になってボランティア活動を行うなど地域ぐるみの取組となっている。

今後、生徒の豊かな人間性や社会性、生涯に渡って学ぶ力の育成に向け、保護者や地域との連携や多くの社会教育活動を有効に活用しながら体験活動を学校経営に取り入れていきたいと考えている。

H O T N E W S

掲 示 板

本紙「公民館月報」購読料 値上げ(予定)のお願い

本紙は過去18年間、現行の購読料で発行してきましたが本年4月からの消費税増税に伴う発行経費を試算しましたところ、赤字になることがわかりました。

つきましては、本紙の購読料を値上げせざるを得ないことをご理解いただき、引き続きご購入をお願いいたします。

なお、値上げ(案)は2月に開催される理事会・評議員会で承認を得る予定です。

記

新潟県公民館月報

(現) 月額150円 年額1,800円
→(新) 月額160円 年額1,920円

*本会が斡旋している「月刊公民館」(全公連発行)も値上げされます。

(現) 月額676円 年額8,112円
→(新) 月額700円 年額8,400円

「お祭り」

ひろば

関川村公運審委員 新野 明美

この秋、村では「祭りサミット」がありました。公民館事業ではありませんが、村の一大イベントでした。祭りと言えば、幼い頃のお神楽を思い出します。町にあるような華やかで立派なおしゃれな屋台はなかったけれども、楽しみにしていたものです。母は私に浴衣を着せて手をひいて暗い夜道を歩いて十五分程度の所にある社に連れて行ったものです。社には何軒もの夜店が並び、ぼつりくとくる村人で賑わうのです。社の中では神主さんが笛と鼓に合わせて舞を舞っているのです。それが不思議に見えたものです。いつもの食卓に祭りの御馳走が並び子供心に嬉しくなりました。今はどうでしょう。洋風化は進み、飽食の時代と言われ、娯楽施設は点在し、いつでも誰でもが楽しさを満喫できるという時代であります。祭りへの思いも変わってしまいました。しかし、日本の祭りには、どこか人の心を惹きつける郷愁めいたものがあるように思います。それはきつと、土着文化が濃縮しているからだと思えます。芸術なのです。人はそこに心を惹かれるのです。それはとても大切なもので、保存し伝承していくことは重要です。幼い日のお神楽を思い出した秋の日のことです。



「公民館の明るい未来」

繰り返し参加するなどの問題もあります。

(田原) それぞれの地域には事情や特色があることがわかりました。どこの職場も少人数で頑張っている様子ですね。職員の専門性ということから、社会教育主事は職場にいますか。

(伊藤) 新潟市は嘱託で社会教育主事の資格を持っている人が多いのですが公民館への任用が少ないです。また、主事の発令をしません。

(岸) 合併後発令がなかったのですが、最近、発令がありました。発令に対する認識、温度差があります。

(熊倉) 長岡も発令しません。

(岸) 村上も4年前に資格講習に行って、それ以後ありません。

(田原) 公民館職員は「専門職」だという認識が少ないのでしょうか。

..... 休憩後

(田原) さて、後半は今後の活動について、市民のための公民館として何を重視すべきか。明るい未来はどうか。自分の夢も含めて自由に発言してください。

(熊倉) 長岡は平成16年に地区館をコミセン化しました。

直後に地震や水害があって避難所として大きな役割を果たしました。住民組織が機能して施設も活用されました。東日本大震災で長岡に避難してきた人々を円滑に受け入れて支援ができたのもこのときの経験が生きています。

避難所を支援活動の場として考えるとき、コミセンと公民館の役割のことは別にして、最も大切なことは人と人を「結ぶ」ということであると学びました。公民館の学習を効果的に進めるときにも通じることだと思います。

(岸) 熊倉さんに共感しました。

村上まちづくりが本題です。私は、公民館の予算が少ないからといってネガティブにならない。むしろポジティブに考えたいと思います。自分の仕事は、ゆるやかに繋ぐことだと思っています。学校、家庭、まちづくり、総合型スポーツクラブなどと繋がる。すなわち結ぶです。しかも、エネルギー消費を抑えながら、人と楽しく結ぶ。自治振興課や地域コミュニティなどいろいろ

ろな人と結び、繋がりながら火を消さない活動を続けていきたいと思っています。村上のメインターゲットは高齢化事業です。

それぞれの人たちの思いを一致させて繋げていき、成果を上げたいと画策しています。



(田原) ゆっくりと繋がる、結ぶはいいですね。そして賛同してくれる仲間を増やす。私たちは公的な仕事をしているのだから自分がスーパースターになる必要はないですね。仲間をつくり、いいチームをつくるというのが最高ですね。

(伊藤) 市民と協同して講座を創り上げると本当に多種多様な意見が出ます。このときに、何を活動で重視すべきことなのかをしっかりと担当者として押さえておきたいと思います。それは、子どもの体験活動でいえば、人への思いやり体験であったり、優しさ体験であったりします。そして活動とおして地域の人たちとの結びもできてきます。また、事業後に評価にも参加してもらうことにより次年度のマンネリ化が防げます。

今、必要なのは子どもたちの交流を支えてくれる地域のサポーターです。公民館としてぜひボランティア養成講座が必要だと思います。

私は、市民の皆さんが用事がなくても気軽に立ち寄れる公民館になればいいなと思っています。個人的には、他へ異動したときに「あの人がいなくなって寂しい」といわれるような市民に愛される職員になりたいと思います。

(田原) 去るときに惜しまれる職員でありたいですね。市民との最前線にいる職員だからこそ生まれる関係ですね。とても良いお話で締めくくることが出来ました。

皆さんの活躍を心から願っています。本日はご多用のところをありがとうございました。

特集

新春座談会

先月12月号では「公民館の課題」等について県内のベテランの3人から熱く語っていただき、第1回座談会として特集に掲載しました。掲載後すぐに感想が当事務局に寄せられるなど良い反響がありました。

今回は第2回目の座談会として、現職の若手3人から「公民館の明るい未来」というテーマで意見交換を行いました。前回に負けない、若手にふさわしいフレッシュな内容の座談会になりました。

座談会メンバー

伊藤麻衣子 (新潟市・東地区公民館)
 岸 宗光 (下越地区・村上市中央公民館)
 熊倉 博 (中越地区・長岡市中央公民館)
 司会 田原 理 (県公連事務局長)
 記録 島津 和子 (県公連事務局長)
 会場 新潟市中央公民館



(田原) 本日はお忙しいところ、また荒天の中、座談会にお出でいただきありがとうございます。

本日は、前回のベテラン編に続き、県内若手のバリバリ3人からお集まりいただきました。

3人の方はそれぞれの公民館で事業担当をされている現職の方々です。今日は、新春号にふさわしい「明るい公民館の未来」というテーマで、前半は事業担当をして「こんな工夫をしている、心がけている」ということを、後半はどんな公民館が市民に魅力となるのか、愚痴はなるべく少なく明るく夢のあるお話をお願いします。最初は「事業を担当して」についてです。

(伊藤) 主に青少年事業を担当しています。新潟市が継続的に行っている青少年体験活動「お寺でゴーン」の担当をしています。運

営をする中で、強く感じるのは職員だけでは運営が難しいので地域の皆さんと協力してやっています。みんなでやっている



と終了後の達成感があって「公民館に勤めて良かった」と思うことが多くあります。

体験活動で朝市に出かけるのですが、お店の方との買い物のやりとりは、子どもにとって大変貴重な体験なので今後も大事にしていきたいですね。

(田原) 子どもに様々な体験をさせることはとても大切なことです。活動に参加させる親はそこを期待していると思います。運営に地域の方々を巻き込んでいるのはとても良いと思います。

(岸) 村上では生涯学習センターができて、機構改革が行われました。私は中央公民館所属の他に生涯学習課と地区公民館の担当もしています。



職員不足の中、市民講座の運営を中心に、県生涯学習推進センターとコラボして「読書ボランティア養成講座」をやりました。来期につなげる事業として「ブックトーク」「読み聞かせ講座」「絵本作家講演」を企画中です。村上には健民少年団があるので年7回のキャンプの中に「お寺で宿泊」というプログラムがあります。その活動に7、8人の中学生が参加しているのが村上の特徴です。小学生の体験活動では、かじか捕り、つり体験や雪遊びなど通年でやっています。これらの運営で最も大事なことは、伊藤さんと同じく地域の人たちの参画だと私も思います。

(熊倉) 長岡は合併後に公民館が大きく変わりました。分館の数は増えましたが、計画的な事業は出来ない状態が続いています。地区館も同様。中央館では成人教育、家庭教育、子育てセミナー等に力を入れています。人事育成という視点を重視しています。



高齢化社会に対応すべく事業として、高齢者向け講座を30年以上開設していますが、受講者減や初心者向け講座に同じ人が

実践記録

190

シリーズ

親子で運動いいですね！

聖籠町教育委員会 高橋 誠司

聖籠町教育委員会主催の「親子サッカー教室」が9月28日、アルビレックス新潟の練習コートとなるアルビレッジを会場に開催されました。

この事業は、文部科学省から委託を受けた事業で、聖籠町教育委員会と(株)アルビレックス新潟、学校法人のJAPANサッカーカレッジが連携して「スポーツの力で地域コミュニティの活性化」を目指すものです。

当日は、87名の親子がアルビレックス新潟やJAPANサッカーカレッジのスタッフから遊びを交えながらサッカーの基本となる動作や、パスやシュートなどボールの扱い方などを教わりました。

また、教室の終わりにはチームに分かれての試合も行われ、全力でボールを追いかける子どもたちと、その子どもに遅れまいと汗をかく親、笑い声があちらこちらから聞こえる親子の光景を見ることができました。

参加した保護者からは「いつもは観戦だけど、一緒に体を動かすのも良いですね」、「子どもと一緒にいい汗を流しました」。子どもたちからも「もっと試合がしたい」、「面白かった」などの声も聞かれました。



教室終了後には第二部として、サッカーボールやアルビグッズなどが入った「宝探し」と、「お菓子つかみどり大会」も行われ、参加した子どもたちは、秋晴れの爽やかな日差しの中、お父さん、お母さんと一緒に楽しい一日を過ごしました。



親子サッカー教室アンケート結果

1. この事業に参加してどうでしたか？		
①良かった	②どちらとも言えない	③良くなかった
32名	0名	0名
2. また同様の事業があれば参加したいですか？		
①参加したい	②どちらとも言えない	③参加しない
32名	0名	0名

3. その他の意見

- ・子どもと一緒にスポーツを楽しむことができてよかったです(8)
- ・5・6年生はもっと技術的な部分を教えてもらいたかったです。(1)
- ・コーチ陣の教え方が良かったです。(1)

○課題は更なるスポーツ資源との連携

聖籠町がアルビレックス新潟のホームタウンとなって10年、JAPANサッカーカレッジが開校して11年、少しずつスポーツ資源が住民に認知され、交流とスポーツ振興による地域の活性化が図られています。

25年度は、文部科学省の委託事業に手を挙げ、6種類、10回の事業を実施・計画しています。「親子レクリエーション」や「親子サッカー教室」、マラソン記録会前には児童対象の「長距離を速く走るコツ講座」を開催するなど、参加者からは「参加して良かった」、「継続してもらいたい」などの声も多く寄せられています。

また、11月には「サッカーDE縁むすび」と題して、サッカーと婚活を結びつけたイベントを開催し、男女各24名の募集に対して、104名の応募をいただき、10組のカップルが成立しました。スポーツが健康増進はもとより、人と人、地域と地域の交流促進、未婚率の低下、少子化対策など、秘めた可能性を持っていることに驚かされるばかりです。

1月13日には、町内外国人と町民とのスポーツと伝統文化をメインとした交流も計画されています。今後もアルビレックス新潟、JAPANサッカーカレッジという豊富なスポーツ資源との連携を深めながら、地域コミュニティの活性化に向けた取り組みを積極的に実行に移していきたいと思ひます。

佐渡から全国へ

LOVEあいかわ・佐渡

私たちは、佐渡の相川で伝承芸能・佐渡の民謡を練習しています。【LOVEあいかわ・佐渡】です。結成8年目になります。

相川の民謡(相川甚句・相川音頭・佐渡おけさ)の地方・踊りを全員が出来ることを目標に頑張っています。

週1回の練習ですが、とても奥が深く自分のものにするには、練習、練習、とにかく練習につきますと思います。

近年は、『宵の舞』『鉾山祭』『新潟まつり』『生涯学習フェスティバル』『地区芸能祭』など市内外の様々なイベントに積極的に参加をしています。



その他にも、観光客の方々に踊りをお見せしたり、修学旅行生に佐渡おけさの講習も行っています。

これからは、全国の民謡団体と民謡交流をしたいと思っています。

佐渡市・LOVEあいかわ・佐渡 弾正 成子 記



ヨサコイは 元気のみなもこです

刈羽輝流

こんにちは。私たちは刈羽村でヨサコイを楽しんでいる、「刈羽輝流」です。

メンバーは、現在老若男女30名、金曜日の夜練で2時間程度汗を流しています。

今年、毎年「海の日」に

柏崎で開催されている「ドンGALA祭り」において、写真にある「地方車」で賞を頂きました。夏の連夜、メンバーが一丸となって作り上げたので、感慨無量です。カッコイイですよ

地元をはじめ、県内各地のイベントに参加させて頂き、今年も富山、能登にも遠征し、踊ってはじめて、その土地の美味しい物も頂いてきました。

「ヨサコイ」があるから元気な自分でいられるのかな…。



刈羽村・刈羽輝流

当山 里美 記

アラフォー戦士で編成されていた当部隊!?にこの春、19歳の新人戦士が入隊してきました。その戦士が田中さんです。新採用での配属のため、職場においては人一倍苦労があると思いますが、毎日明るく元気に仕事に取り組んでいます。当市では、毎年夏に成人式が開催されます。担当としての初仕事でしたが、例年以上の盛り上がりを見せ、大成功でした。

妙高市教育委員会 生涯学習課 主事補 田中 里実さん



日常会話の中にもジェネレーションギャップを感じる場面が多々ありますが、それも一つの現実としてとらえ、「日々是精進」の精神で、担当している青少年教育や人権教育の分野を中心に様々な人と話し、たくさんの経験を積み、大きく羽ばたいてくれることに期待しています。

(妙高市教育委員会 生涯学習課 竹内 正則 記)

見附市北部に位置する新潟公民館。人の出入りがひっきりなしに絶えません。そしていつも笑いの絶えない公民館の事務室。なぜならそこには関さんがいるから。そう、関さんがいるからなのです!

今や見附市の公民館にはなくてはならない存在である関さんは、地域コミュニティ職員を兼務しつつ、公民館業務を一手に担っています。

そんな多忙な毎日にもかかわらず

見附市新潟公民館 主事補 関 容子さん



ならず、関さんに会いにくる地元の方には親切丁寧な神対応。

これからも、公民館にずっと居て欲しいとの声はどこからともなく耳に入ってきます。

新潟地区のスーパーアイドル関さんからもう目が離せません!

(見附市北谷公民館 斎藤 雄 記)

素顔 拝見

Net work

県・フォーラム開催

平成25年11月29日(金)に上越市・ユートピアくびき希望館において、「社会全体で子どもをはぐくむ運動」フォーラムが開催されました。

当日は、公民館職員、市町村担当者、学校関係者等196名の参加者があり、トークセッションをはじめ終日賑わいました。

- トークセッション
コーディネーター 望月 正樹 (妙高小校長)
パネラー 藤井清比古 (中郷地区公民館協力員)
石野 正彦 (上教大教授)
秋山三枝子 (くびき野NPOサポートセンター理事長)
佐藤 賢治 (前春日中学校長)



会場一杯の参加者

トークセッション

○活動紹介・関連図書紹介



パネルで紹介

○分科会



パネリストとともにグループで話し合い

お元気ですか



「元気です」 上田 眞藏 (魚沼市)

退職してから15年過ぎたが、おかげさまで元気です。13年間務めた民生・児童委員(主任児童委員)が11月に終わりほっとしています。この間、保育園や小・中学校の行事に参加して、いつも子ども達から元気をもらって楽しかったです。これからも地域の子供達に声をかけながら見守りを続けたいと思います。先日「魚沼市子ども芸能祭」を観て、子ども達が伝統芸能を引き継ぎ素晴らしい踊りや太鼓、三味線などを披露してくれました。また、今年の『わたしの主張』で広神中3年目黒葉月葉さんが「伝統文化は『グサイ』のか」を発表し最優秀賞を受賞しました。これからも魚沼の子供達が伝統文化を大切に受け継いでゆくことを期待しています。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

information

全国公民館セミナー参加者決定

第25回全国公民館セミナー(平成26年1月15日(木)~17日(金) 東京・代々木オリンピックセンター)の参加者が次の4人に決定しました。

- 岸 宗光 (村上市生涯学習課)
- 奥村 正弘 (新発田市紫雲寺地区公民館)
- 丸山 夕香 (新潟市中央公民館)
- 山際 結城 (新潟市石山地区公民館)

公民館月報3月号に参加レポートを掲載する予定です。

雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊富な水資源や良好な自然環境に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。

協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 入村 明(会員18市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)

TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

事 務局長のつぶやき
以前、「美しい日本語を」というキャンペーンがありました。年々歳々、気になる言葉遣い。以前から「うじやないですか」という言い方が気になっていました。かあという語尾は、相手の同意を求めている言い方で、いちいち「そうじやない」と言わないと同意見と思われる気持ち悪さか。最近は一になりません」といふ言い方商品説明の折にほとんどの人がこう言

ます。本物ではありませんと言っているような。「大正エジになります」。ですと言いつつ切らないところが怪しい。1月1日は元旦になります。常々、編集者として、言葉遣いには慎重を期さねばと肝に銘じています。ともあれ、新年が明けました。1昨年は大震災。昨年は異常気象。特に秋の長雨。今年こそ、穏やかで幸多い一年になることを願わずにいられません。本年もよろしくお願いたします。(田原)